

# 秋彼岸法要の「安木内」

九月 二十三日 (月) 秋分の日

午後 二時 より

御詠歌奉詠

御先祖供養 (志納袋を「ご持参下さい」)

## お彼岸 秋彼岸△云

《先祖供養の一週間》

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれる通り、お彼岸は春、秋共に大変よい時候のときに行われ、秋のお彼岸は秋分の日を中心に御先祖供養と己を省みる大切な1週間です。

彼岸とは、迷いの世界から悟(さと)りの世界へ至る教えで、布施(ふせ)、持戒(じかい)、忍辱(にんにく)、精進(しょうじん)、禅定(ぜんじょう)、智慧(ちえ)の6つの教えを実行すれば、幸福になることができると示されています。

そうした信仰から私達が自らを振り返り、御先祖様へ感謝の心を起こし、お彼岸の期間中に家族そろって(お寺参り)や(お墓参り)をするようになったと言われています。

また、このようなご先祖様に対する良い行ないが、功德となって現世の私達に巡ってくるのです。

「お彼岸や 菩提(感謝)の種をまく日かな」かたよらない心 こだわらない心 とらわれない心

～家族そろってお彼岸のお参りを～

お彼岸には家族そろってお墓(お寺)参りをしたいものです。

お彼岸は中日でなくとも、その前後あわせて七日間の期間がありますので、子孫のつとめとして忙しい中でも年数回のお参りは欠かさないようによみましょう。

友人・知人のお付き合ひも大切ですが、こうしてこの世に幸福に暮らせるのもご先祖さま(仏さま)あつてのこと。見えない支えになっているだけに、お墓参りをすることは大切な行為です。

お墓参りをすませた後のすがすがしい気持ちこそ、明日への力であり、幸せを呼ぶ道への第一歩となるのです。

「迷いとは心が二つになること 悟りとは心が一つになること」

合掌

令和元年 九月 吉日

大雄寺住職

奥村 孝善

